

## 横浜市における生物多様性の取組

「ヨコハマプラン」について



横浜市環境創造局長  
荻島 尚之

## 横浜市の概要



### 横浜市

- 市域面積：434.98km<sup>2</sup>
- 人口：3,689,143人
- 世帯数：1,594,179世帯
- 人口密度：8,481人/km<sup>2</sup>



## 「ヨコハマ」のイメージ



みなとみらい21地区



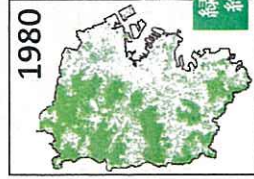
開港記念会館



## 都市化による生物多様性の危機

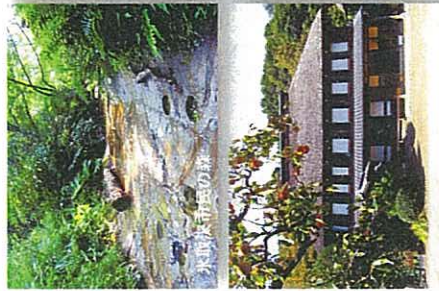
- 1960～1970年代の急激な住宅開発により樹林地・農地が失われる

➡ 現在も緑の減少は続いており、  
生物の生息環境の危機を招いている

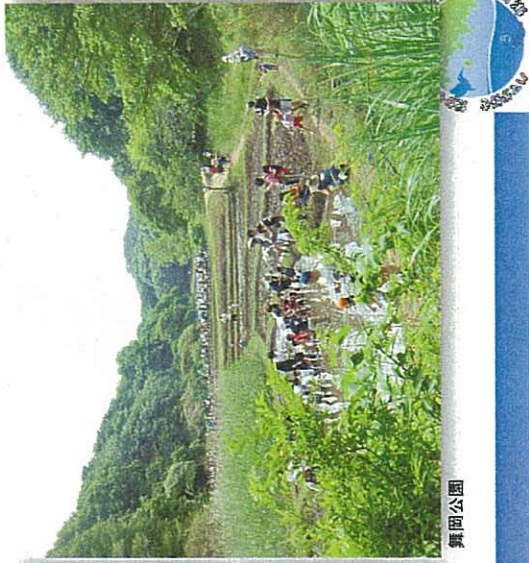


※緑被率は、調査年度によって調査手法や範囲が異なるため、おおよその傾向を示したものです。

# 身近な場所に今も残る自然



みその公園橋清屋敷



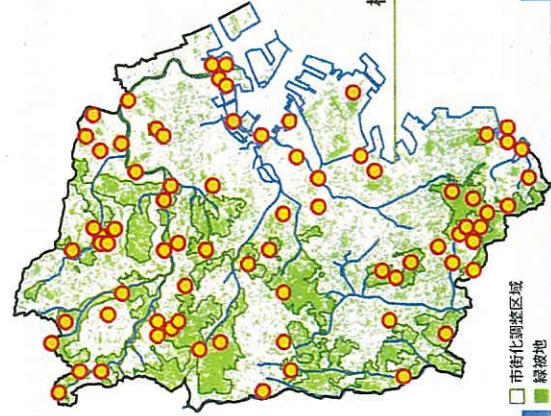
舞岡公園



# さまざまな市民の活動



# さまざまな市民の活動



3,800を超える  
環境団体が活動中

- ・市民の森愛護会
- ・森づくりボランティア
- ・環境活動リスト登録団体
- ・公園愛護会
- ・水辺愛護会
- ・はまロードサポーター
- ・援農ボランティア などなど
- ・緑化推進団体

横浜市内の主な活動拠点・フィールド



# 自然と暮らしをつなげるために

平成23年4月

## ヨコハマプラン (生物多様性横浜行動計画)

策定

b = biodiversity (生物多様性)



## ヨコハマbプラン(生物多様性横浜行動計画)

### ■ ポイント

- 次世代を担う子どもたちをメインターゲットに生き物体験の大切さを伝えていく
- 横浜で培われた**市民、企業の行動力**を生物多様性の行動につなげていく
- 「読みやすい」「分かりやすい」を重視し具体的なイメージが湧く表現とする



## ヨコハマbプラン(生物多様性横浜行動計画)

### ■ 位置づけ

生物多様性基本法第13条に基づく『生物多様性地域戦略』に該当

### ■ 計画期間

長期目標 2025年度まで  
中期目標 2013年度まで

### ■ 2025年の将来像

身近に自然や生きものを感じ、楽しむことができる豊かな暮らし



## ヨコハマbプラン(生物多様性横浜行動計画)

### 第1章 将来像

第2章 生物多様性の取組を進めていくために3つの地区区分と2種類の拠点の考え方

第3章 重点推進施策 ～6つの重点アピール～  
横断的取組を戦略的に推進

第4章 4つの取組方針と具体的取組

2013年度を目標とした75の具体的取組・事業

第5章 市役所の率先行動

ISO14001への反映と「現場の知恵」の集約

第6章 bプラン活動単位版(仮称)

あらゆる主体が行動計画を策定



## ヨコハマbプラン(生物多様性横浜行動計画)

### 重点アピール①

### b-プロモーション

生物多様性の主流化に向け、戦略的に展開

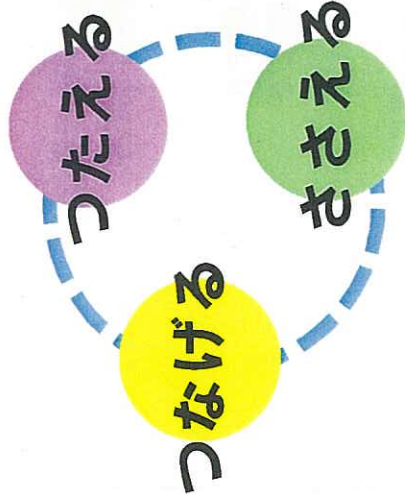
＜重視する視点＞

- 子どもを主役に
- まずは身近な自然を大切にすること、楽しむ
- 生活の一部として取り組む



子どもたちと田んぼの生きもの調査





- ・環境教育出前講座
- ・ポータルサイト「エコぼると」
- ・環境行動フェスタ
- ・ヨコハマbデイ
- ・横浜環境活動賞
- ・環境活動助成金



## 平成24年度実施概要

対象：小学校、地域団体 等

講座数：37プログラム

実施団体数：市民団体15、企業6、行政13課

※ご希望に応じてゼロから講座を組み立てる「オーダーメイド版」もあります。

※23年度実績延123回、延参加人数1万人。



## ヨコハマ・エコ・スクール

『横浜で地球を学ぼう』をキャッチフレーズに、市民、市民活動団体、事業者、大学、行政が実施する環境問題に関する様々な学びの場を、「YES」という統一ブランドで全市的に展開する市民参加型プロジェクト



## 環境行動フェスタ

エコ（環境問題）に関心はあるけれど、行動に移していない市民をメインターゲットとしたイベント。観光・商業施設のイベントスペースを会場に、市民団体や企業等による体験型展示やステージイベント等を実施。

## ヨコハマbデイ

(社)CEPAジャパンとの共催イベント。活動団体や企業、教育機関等さまざまなセクターによる事例発表と交流を通じて、情報発信と活動の活性化を図る。



## 横浜環境活動賞

平成5年度スタート。団体、企業、児童・生徒・学生の3部門を表彰。これまで延211団体が受賞。23年度は生物多様性特別賞を創設。

## 環境保全活動助成金

横浜市環境保全基金の運用益を活用。上限10万円の少額助成。通年受付。申請手続及び審査の簡略化により、より使いやすい制度とした。



重点アピール②

鳥類の生き物探検と市民参加の生き物データバンク

- 市民にとって身近な「鳥類」を、市民参加で調査することにより、地域の自然環境への理解を深める
- 市民団体や企業と連携して、生物の生息・生育状況のデータベース化を進める



自然豊かな水辺の指標-カワセミ



重点アピール③

『谷戸』環境の保全と活用

- 「谷戸」＝横浜における里地里山の特徴的な地形
- 「谷戸」に息づく、豊かな生き物とその歴史、文化、景観に着目
- 現代社会における新たな「谷戸」の価値の創造に取り組む



農業振興施策で守り活用する-寺塚ふるさと村



重点アピール④

つながりの森

- 円海山の周辺＝横浜市南部に位置する市内最大の緑地であり生物多様性の宝庫
- 「つながりの森」と位置づけ、次代を担う子どもたちの体験フィールドとして、横浜市民全体で守り・育てる取組を進める。

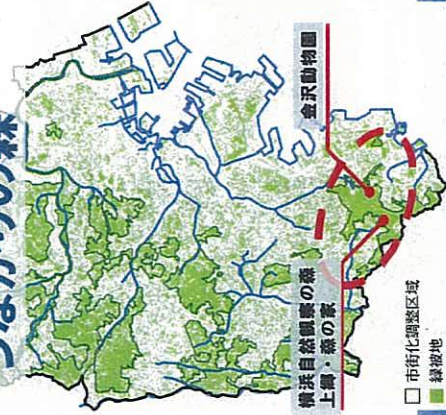


体験の拠点-横浜自然観察の森



重点アピール④

つながりの森



円海山周辺の緑地(横浜市市民の森)



上郷・森の家



重点アピール⑤  
**つながりの海**

- 市民が誇れる、生き物豊かな「美しい横浜港」を目指す
- 浅海域に着目した取組を市内3か所を進める

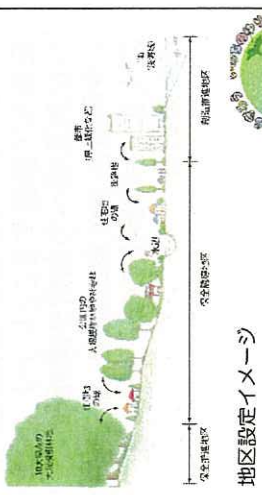


□ 市街化調整区域  
 ■ 緑地



重点アピール⑥  
**生物多様性を守り、豊かにするためのしくみづくり**

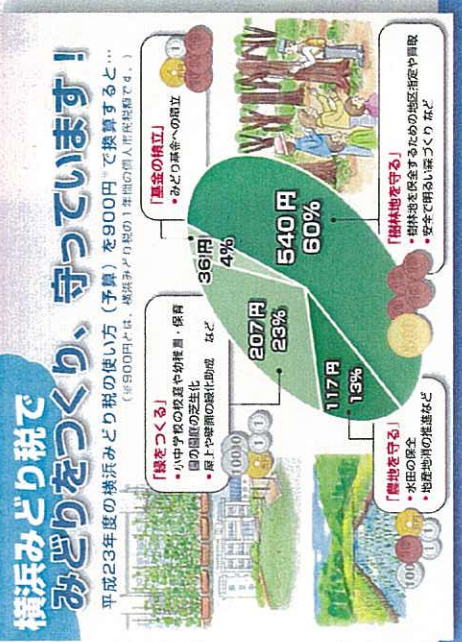
- 横浜市内の自然環境の特性や土地利用の現状を踏まえた地区設定の考え方を示す。
- 土地利用制度を積極的に活用するためのしくみづくりについて検討



地区設定イメージ



・「横浜みどり税」を財源とした樹林地、農地の保全



生物多様性自治体ネットワーク

